

## 2015 合同教研 テーマ討論①「戦後 70 年、憲法と平和を考える ～学校・地域・職場で～」

最初、コーディネーターの黒澤幸一さん（道労連議長）から、「安倍政権が戦争法案を強行採決する中、それに反対する若者が声を出すようになり、SEALDs やふるえるデモに参加者が増えてきた。今、子どもたちにどのような教育を行うのが良いのでしょうか。今日は参加型のテーマ討論にしたい」とのリード発言があり、続いて 3 名のパネラーから、話題提起がありました。

藪口一哲さん（高校教員）から、「東京でもできる平和学習」の紹介があり、「自分の学校では平和学習の実践がしやすく、管理職も喜んでくれている。東京の修学旅行でも平和学習ができるということで、子どもたちも素直に学んだことを吸収してくれる」との実践紹介がありました。

神保大地さん（弁護士）からは、「明日の自由を守る若手弁護士の会」がインターネットで発信し、「憲法カフェ」でざっくばらんに集まって語り合える「場」づくりをしている。若者がデモで「民主主義ってなんだ」「民主主義ってこれだ」と訴えています、デモすることって民主主義なんです」とのコメントがありました。

金倉かずささん（安保法制に反対するママの会@北海道）は、「4 歳と 8 歳の子どもがいます。ママの会は、7 月 16 日に結成され、フェイスブックで登録するんですが、一昼夜で 300 人も集まりました。本当にフェイスブックの広がりはずごいものがあります。今では全道で 850 人になりました」との報告がありました。

その後のフロアー交流では、小学校教員から「想像力」というキーワードで、「釧路空襲で 200 人もなくなったのに、軍隊は国民を守らなかったのです。そのことを口では言いませんが、考える授業もしています。他の教員から“職員室ではなかなか話せない”“強行採決の時は、生徒も怒っていた”との発言があり、保護者からは「高校時代にもっと本質的な歴史を教えてほしかった」との発言もありました。

最後に参加者から「来て良かった！若い方、先輩方の力を肌で感じた。日常の忙しさと忘れかけていた平和運動への力を取り戻しました」という感想が述べられました。